

第623回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1. 大橋川改修 天神川水門（ライジングセクターゲート） [H26年度全建賞] … 松江市袖師町～灘町

松江市に面する宍道湖と山々の緑を背景とした自然景観は古くから松江市の人々に親しまれ、人々の憩い・安らぎの場として、シジミ漁などの生活に根ざした場として、また観光地としてその美しい姿を呈しています。特に、島根県立美術館周辺は公園や夕日スポットなどが整備され、松江市のウォーターフロントの中心地として、観光客の訪問が絶えない場所となっています。一方で、美術館前を流れる天神川沿川は住宅が密集しており、昭和47年7月洪水及び平成18年7月洪水では、宍道湖の水位上昇によって天神川周辺において浸水被害が発生しました。そこで、宍道湖と天神川の合流部に宍道湖の水位上昇時における天神川への洪水の流入防止施設として治水上の機能を果たすと同時に、水都松江の代表的な景観にふさわしい風格ある湖畔風景の形成が求められる重要な施設として天神川水門が計画され、平成26年度に完成しました。天神川水門の形式には「ライジングセクターゲート」を採用しています。特徴は、土木構造を低く抑え管理橋と一体とすることで、景観に配慮した設計となっています。ライジングセクターゲートは、ゲートの扉体が回転することで川を締め切る構造のため、背の高い門柱が不要になり、一般的なローラーゲート水門と比べて景観面で優れています。なお、天神川水門は平成26年度全建賞を受賞しました。

（視察キーワード：治水、景観、全建賞等）

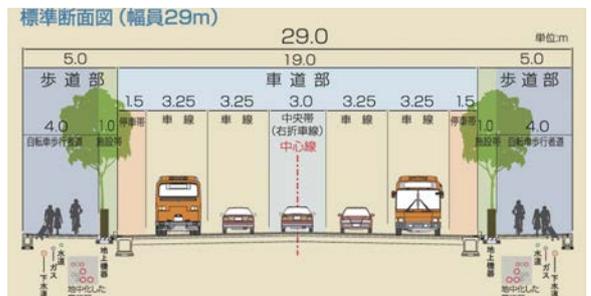


2. 城山北公園線 都市計画街路事業

城山北公園線（大手前通り）は、松江市の橋北部を東西に結ぶ主要な幹線道路で、1日を通して自動車や自転車、歩行者の通行が多い道路となっています。しかし、歩道の幅員が1.5m程度と狭く、場所によっては、歩道が整備されていない箇所や電柱が設置されていて通行する際の安全面が課題となっていました。整備にあたっては、平成14年に「松江市中心市街地活性化基本計画」を策定し、「大手前通り」の周辺地区について、道路整備とともに沿道のまちづくりについても検討しました。本路線を整備することは、「交通の円滑化」のみならず、高齢者などの交通弱者や地域住民の「歩行者・自転車の安全確保」の面、沿線に松江赤十字病院などの防災拠点及び県民会館などの避難施設があることから「都市防災」の面からも、防災拠点を結ぶ緊急輸送道路としても重要な道路と位置づけました。城山北公園線の整備により歩道は4mに広がり、段差も解消され車椅子やベビーカーでも歩きやすい、安心・安全・快適な歩行空間に生まれ変わります。

（視察キーワード：都市計画、都市防災、地域活性化等）

…………… 松江市殿町～学園南



3. 神門通り線 都市計画街路事業 [H25年度全建賞]

神門通りは、出雲大社への参詣道として国鉄大社線の開通（1912年）にあわせ整備され、沿道には歴史的建造物や旅館、土産物店が軒を連ね、多くの参拝客で賑わう門前町として栄えてきました。しかし、車社会の到来や国鉄大社線の廃線などの影響により、歩行者の往来が減り、かつてのにぎわいが失われました。このため、出雲大社の「平成の大遷宮」を契機に県、出雲市、関係団体及び地元住民が一体となって、出雲大社の門前にふさわしい風格と賑わいのある通りへの再生に取り組むこととしました。住民参加のワークショップを何度も行い、多くの意見を取り入れながら進めました。平成20年に商店街有志や地域住民等が中心となった「神門通り甦りの会」が結成され、ガイドマップ等の情報発信事業、日よけ暖簾等の修景事業、置き座やフラワーポット等のおもてなし事業など様々な取り組みが実施されました。神門通りの再整備等により平成18年に22店舗だった沿道店舗数が現在は73店舗に増え、多くの参拝客で賑わっています。なお、神門通り線都市計画街路事業は平成25年度全建賞を受賞しました。

（視察キーワード：都市計画、住民参加、地域活性化、景観、全建賞等）

…………… 出雲市大社町



4. 一般国道9号多伎・朝山道路 口田儀第4高架橋PC上部工事 … 出雲市多伎町～太田市朝山町

島根県は東西に約230kmと細長く、東西を結ぶ幹線道路が国道9号だけであり、ひとたび災害や事故が発生すれば、大きな迂回を強いられ、貨物輸送の99%以上を自動車に依存する地域の社会経済活動に大きな支障をきたしています。このため高速道路ネットワーク整備に対する地域のニーズは非常に高く、山陰道の早期完成を目指し重点的に整備を進めています。

一般国道9号の出雲市と大田市境の「仙山峠」付近は、急カーブが連続し交通事故の多発する島根県内でも有数の交通の難所となっています。また、平成18年7月豪雨災害では、国道9号が全面通行止めとなる等、災害が頻発する区間ともなっています。

多伎・朝山道路はこのような課題を解決するため計画された道路で、島根県出雲市多伎町久村から大田市朝山町朝倉に至る延長9kmの自動車専用道路として平成18年度に事業化し、現在、平成30年度の供用に向け、各種事業を実施しています。口田儀第4高架橋は、橋長426m、幅員9.5mのPC4径間連続ラーメン箱桁橋で、多伎・朝山道路で最も橋長が長い橋梁です。下部工型式は、橋台は逆T式橋台、橋脚はSRC中空式橋脚となっています。

国道9号と並行することによって交通を分割することができ、事故発生による渋滞箇所を避けて通行することができます。また国道9号の線形不良箇所を避けて救急搬送することができるため、安全で速やかな搬送をすることができ、慢性的な渋滞や自然災害による通行止めの回避など、経済の活性化や安全・安心な暮らしなど、多様なストック効果が期待されています。

(視察キーワード：ストック効果、地域活性化、交通ネットワーク等)



5. 斐伊川放水路 [H25年度全建賞]

…………… 出雲市西園～大津町

島根県東部を流れる斐伊川と神戸川の抜本的治水対策は沿川に大きな洪水被害をもたらした昭和47年7月洪水を契機として、上流・中流・下流でそれぞれ治水機能を分担して沿川全体の安全性を向上させるよう計画され、①上流部のダム建設（斐伊川及び神戸川）、②中流部の斐伊川放水路建設と斐伊川本川の改修、③下流部の大橋川改修と中海・宍道湖の湖岸堤整備、の3つの柱からなっています。

中流部の対策である斐伊川放水路は、斐伊川を流れる洪水の一部を分流し、隣接する神戸川へと合流させて日本海へと流すもので、斐伊川下流域の洪水を減らすとともに、神戸川の安全性も確保するよう計画されました。

斐伊川放水路は、全体延長13kmで、斐伊川と神戸川とをつなぐために延長4kmにわたり出雲市の市街地南部の丘陵地帯を掘削し、幅約100mの新しい水路をつくり出すことで、影響する河口までの延長を9kmにわたる川幅を従来の1.5倍となる300～370mに広げました。

斐伊川放水路事業は、昭和56年に事業着手し、平成25年6月に完成しました。

また、環境・景観への配慮がなされている点が評価され、平成25年度の全建賞を受賞しました。

(視察キーワード：治水、環境・景観、全建賞等)

